

令和4年度(2022年度) 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園さつなえのもり

1. 本園の教育・保育目標

- * 「こども中心・あそび中心のこどもの城」という学園理念に基づき、こどもたちの生き抜く力の基礎となる、心と身体の調和の取れた発達を遊びを通して育くむべく日々の保育を進めていく。
- * 乳児部幼児部共に、こども1人ひとりの個性を尊重し、自分で考え判断し行動するという主体的で自発的な活動を納得いくまでとことん取り組めるような環境づくりに努める。
- * こどもたちの主体性を育む上で必要な物的環境、時間的環境、空間的環境を創造していくことに全教職員は尽力し、共通認識を持って取り組んでいく。

2. 重点目標

- ・ 個々の育ちを保障するために、1人ひとりの発達に合わせ愛情深く寄り添い主体性を育むよう尽力する。
- ・ 主体性を育む上で必要な物的環境・時間的環境・空間的環境をつくり出す上で必要な保育研究に積極的に取り組みそれを実践する。
- ・ 保育教諭をはじめすべての職員はその業務すべてがこどもたちの育ちに繋がっていくという自覚と誇りをもち、様々な事柄に自ら主体的に取り組んでいくとともに職員間での連携や協力体制を築いていく。
- ・ 保護者との連携や交流を通してこどもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共有することで、こどもたちを共に育てる「共育」が進められるよう努める。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1人ひとりの人格を尊重し子どもの育ちに応じた柔軟な展開とその援助に取り組むことができた	「個の主体」「集団の主体」をしっかりと意識し年齢に応じた取り組みを行ない、自発的・意欲的に関われるような環境をつくっていった。
様々な関係機関と連携をとりながら保護者との相互理解を深めることができた	特に、支援が必要な園児について関係機関（児童デイサービス・病院など）と連携を密にして職員間の情報共有も深めた上で保護者と共に、子どもたちがより安心できる環境をつくっていった。
職員同士が主体的に学び合う姿勢と職場の環境をつくることのできた	保育内容などに関する実践研究として今年度は札私幼の公開保育で保育研究の発表を行うことができた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

保育の理念・目標・方針とその共有を行う中で子どもの実態に即した柔軟な環境の再構成を行うことができた。また子どもの主体的な遊び・生活、子ども相互の関わりや関係づくりを保障するための適切な援助も行うことができた。上記にも触れたが札幌市の公開保育を行ない、保育発表をしたり見学者からの質問に答えることで職員の自信につながり、保育理解がさらに深まっていくきっかけになったのではないかと考える。

5. 今後取り組むべき課題

保育記録のあり方については、様々な方法（ドキュメンテーションやポートフォリオ、ラーニングストーリーなど）を学び取り組んでみたいと考えている。また、アフターコロナとして希薄になっていた地域との連携や小学校との交流などもまた再開していきたい。